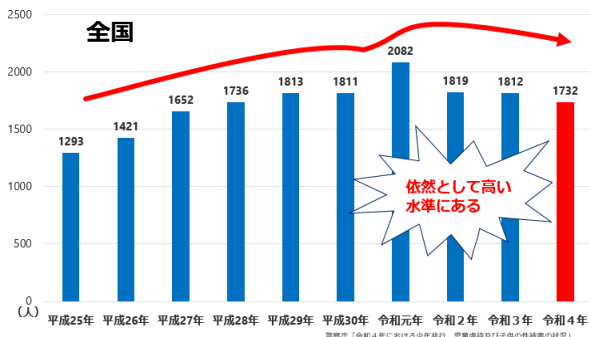


あなたのSNSの使い方は大丈夫？



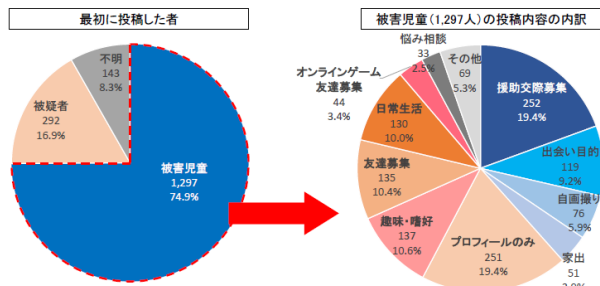
SNSを通じて犯罪の被害にあう児童・生徒の数は、高い水準で推移しています！

被害にあった児童の数（平成25年～令和4年）



令和4年、SNSを通じて児童ポルノや児童買春などの被害にあった児童は1,732人。前年から4.4%減少したものの、依然として高い水準で推移しています。

最初に投稿した者と投稿内容の内訳（令和4年）



令和4年におけるSNSに起因する事犯の被害児童と被疑者が知り合うきっかけとなった最初の投稿者の割合は、被害児童からの投稿が74.9%を占める。

出典：警察庁 なくそう、子供の性被害。統計データ「R4kodomo.pdf」

CAUTION 実際の被害事例 CAUTION

■ 未成年者誘拐被害

SNSで知り合った人に悩みを相談していたら「慰めてあげる」などと言葉巧みに誘い出され、直接会いに行ったところ加害者の自宅に連れ込まれてしまった。



SNSでのやりとりだけでは、相手の本当の姿は分かりません！
ネットでも知り合った人と気軽に会うと、深刻な被害につながる可能性があります。

■ 児童ポルノ製造・提供被害

女子生徒は交際相手に裸の写真を求められ、「送ってくれないなら別れる」などと迫られ自分の裸の写真を送信してしまった。その後、交際を断ったところ逆恨みされ、インターネット上に自分の裸の写真が拡散されてしまった。



人に見られては困る写真を送ってしまうと、それをネタに更にひどい被害を受けることもあります。
どんな理由をつけられても、絶対にそのような写真を送ってはいけません。

■ ストーカー被害

よく行くお気に入りの店を友人に教えてあげようと思い、位置情報をオフにして撮影した写真をSNSに投稿したところ、投稿した写真の背景から撮影場所を特定されて、知らない人に付きまとわれるようになった。



写真の位置情報をオフにしても、写真に写り込んだ景色や文字などから撮影場所が特定されることもあります。
SNSの公開範囲を適切に設定するなどの危機管理が必要です。

